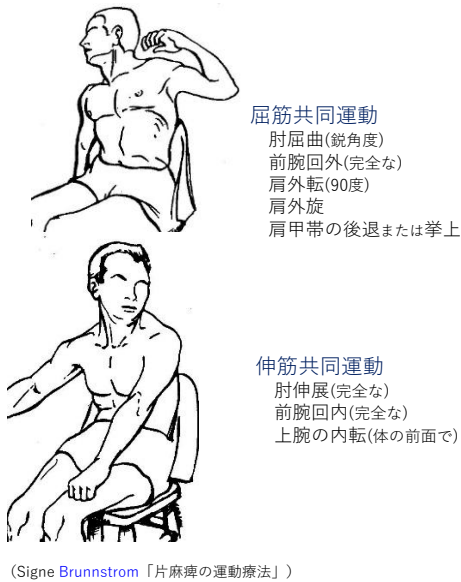
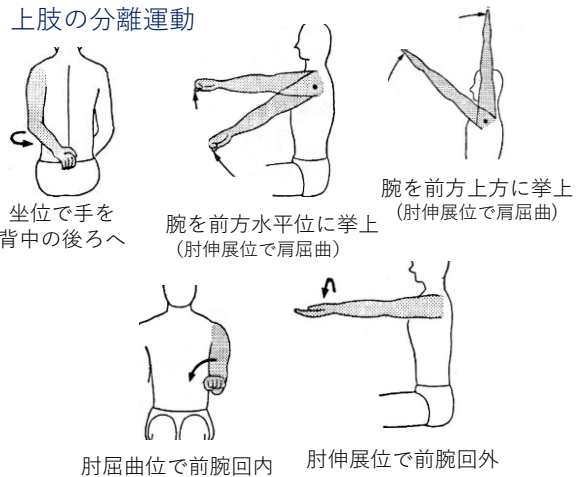


# 脳性麻痺片麻痺の運動障害



## 上田式12段階評価



1

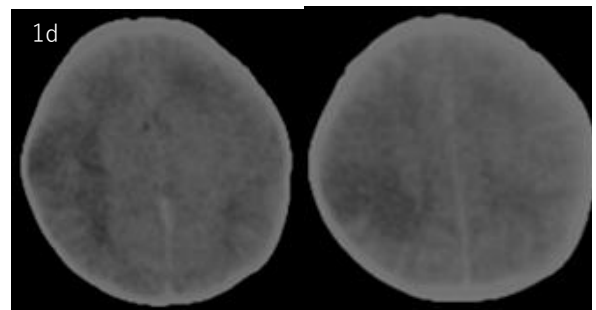


2



3

## 周生期右中大脳動脈梗塞



左極軽片麻痺  
右不器用  
知的障害なし



4



16d

左股は外転外旋位で屈曲優位  
左膝は屈曲優位

下肢

左：股屈曲過活動  
+分離運動制限

右：？

(下肢伸展常時筋収縮状態はない)

背臥位では、左手は前に出にくい

介助座位では、左肘は後方に退け、肘屈曲位をとりやすい

左上肢

・肩先の後方移動

・肩伸展

・肘屈曲

・前腕中間~回外位 が優勢

片麻痺として十分有症候である



左股屈曲外転外旋・膝屈曲位が優勢  
下肢屈伸運動量が少ない



Moro反射

5



2m

右leg-liftはなし

左下肢共同運動



3m

左下肢共同運動

右leg-liftはなし

左上肢

肩内転・肘少屈曲・前腕少回内(手の少し前出し)↔

肩少外転・肘伸展・前腕回内(側下方に伸ばす)↔

肩少外転・肘屈曲・前腕回外(脇占め側得下方に少し伸ばす)

下肢

左：股屈曲過活動+分離運動制限  
(下肢伸展常時筋収縮状態はない)

右：股屈曲過活動+分離運動制限(軽微)



左肘屈曲・肩伸展・前腕回外



左肘屈曲・前腕回外  
背臥位では肩伸展できず

左上肢の伸展共同運動肢位はみられない

6



・股屈曲過活動  
・分離運動制限  
(左)



左上肢は、肘伸展・前腕回外で側方に伸ばせない  
✓ 肩内転・肘屈曲・前腕回内の対抗あり



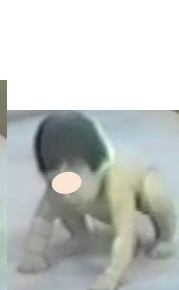
7



肘少屈曲・肩少伸展・前腕回内が中間位



股屈曲過活動  
分離運動制限(左上下肢)



8

股屈曲過活動 上肢屈曲常時筋収縮状態		上肢伸展共同運動	上肢屈曲共同運動
肩	内転 挙上	内転	外転(90度)・外旋 挙上または伸展
肘	屈曲	伸展	屈曲(鋭角)
前腕	—	回内	回外(完全)
手	屈曲	—	—

股屈曲過活動・  
上肢屈曲常時筋収縮状態  
+  
上肢伸展共同運動  
肩外転はできず、  
肩伸展・肘屈曲・前  
腕回外位をとる



股屈曲過活動・  
上肢屈曲常時筋収縮状態  
+  
上肢伸展共同運動  
前腕回内はするが、  
肘伸展は阻止される



股屈曲過活動・  
上肢屈曲常時筋収縮状態  
+  
上肢屈曲共同運動  
肘屈曲は過大となるが、  
肩外転は阻止される。  
ただし、肩伸展はあり



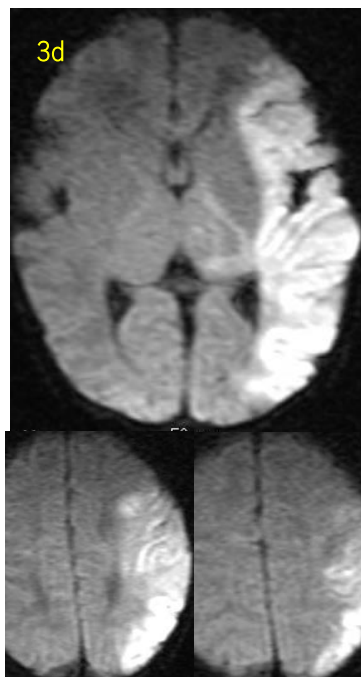
股屈曲過活動・  
上肢屈曲常時筋収縮状態  
+  
上肢伸展共同運動  
肩内転位で肘不完全  
伸展しかできない

9

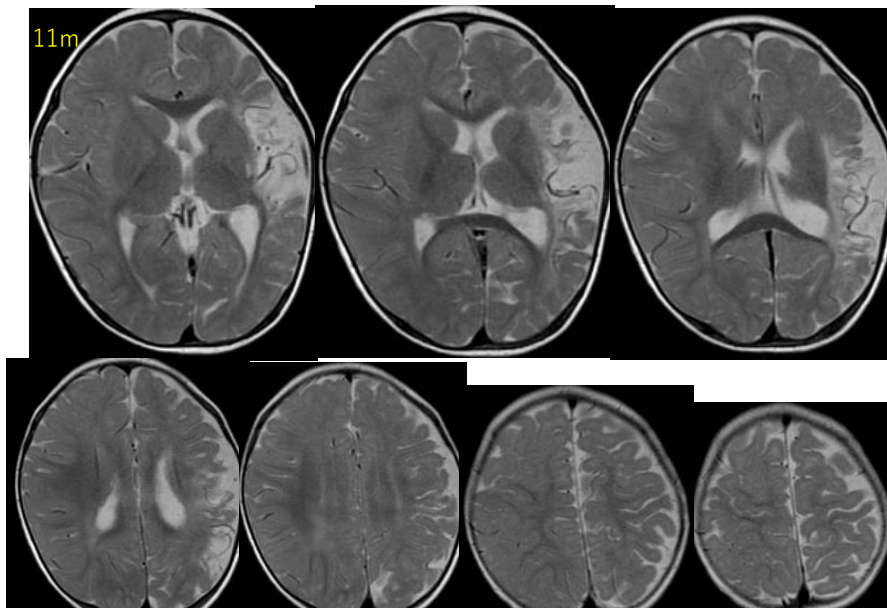


10

・満期 ・1dに新生児痙攣(右上下肢) ・独歩 12m ・8歳:右手不器用 (愁訴なし)



・ WISC-IV 6y8m : 全検査 90, 言語理解 105, 知覚推理 89, ワーキングメモリー 82, 処理速度 86



11



12



13



14

・右中大脳動脈領域の孔脳症(CT) 周生期中大脳動脈梗塞か ・独歩1y3m ・12yに左アキレス腱延長術 ・知的障害なし



\*上肢は股屈曲過活動の屈曲常時筋収縮状態と共同運動との混合

15



16



つかまり立ち上がり  
 ・左膝立て  
 ・右股外旋・足背屈の足内側荷重



17



・右漕ぎいざり ・左肩筋の過収縮

尻出し立ち上がり



18



19

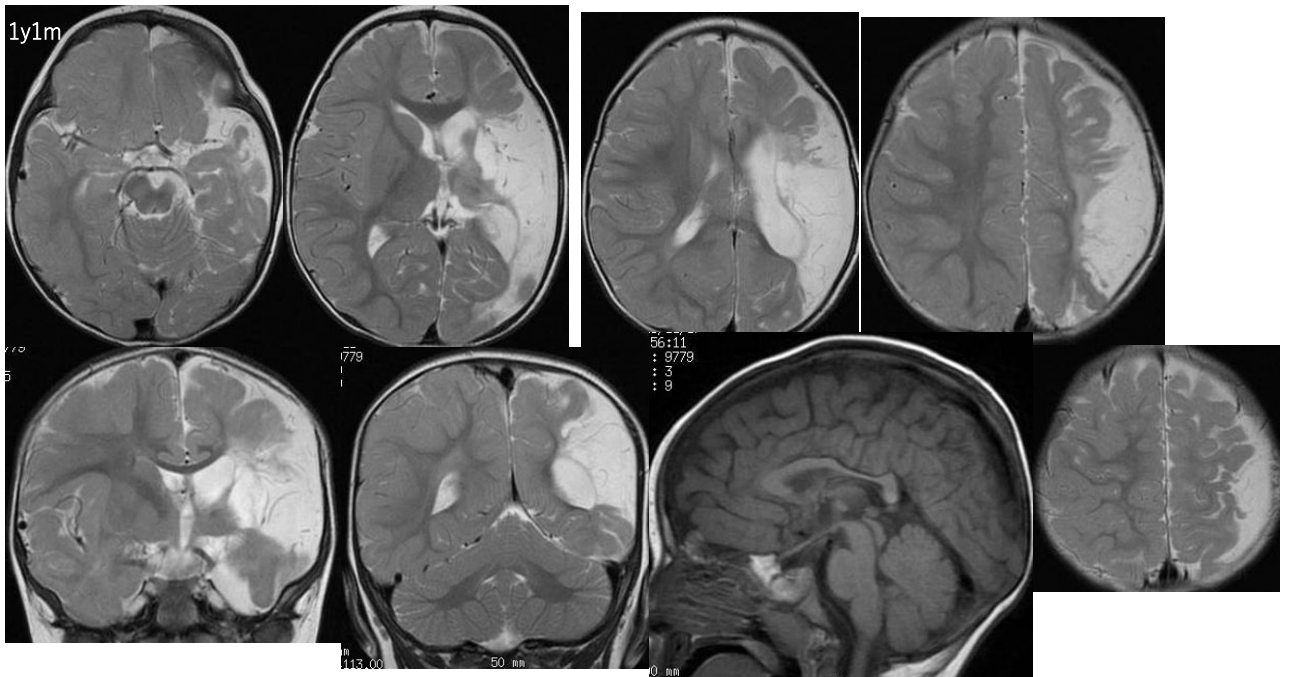


20



21

・満期 ・独歩 1y7m ・K式 (3y1m) CA 86, LS 76



22



23



24



- ・股屈曲過活動 ・分離運動制限(右)
- \*右上肢は、肘半屈曲前腕回内前方出し と 下垂肩内旋位

25



過開口はわずか

ウサギ跳び \*左は股屈曲のまま

ウサギ跳び \*右股屈曲外転・膝屈曲固定

バタバタ動揺し、後に倒れる

走りたがる

- ・股屈曲過活動の下肢屈曲常時筋収縮状態の進展する。上肢も。
- ・分離運動制限(右)は下肢症候は軽症 *共収縮制御障害はない*
- \*右上肢は、股屈曲過活動の上肢屈曲常時筋収縮状態と共同運動との混合

右上肢: 肩内転・前腕回内・手屈・MP背屈・IP屈曲

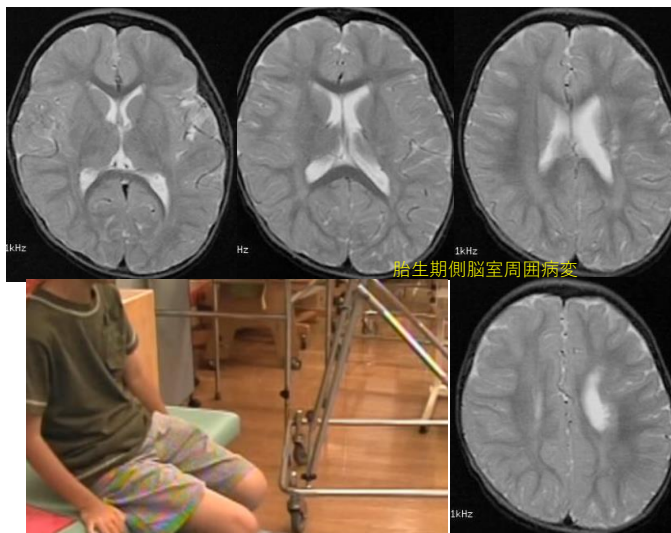
26

- ・ 周生期著変なし
- ・ 独歩 1y1m
- ・ 進学高の優等生
- 野球もやる

右片麻痺



- ・ 分離運動不能
- ・ 鏡像運動



- ・ 分離運動不能

27



- ・ 股屈曲過活動(右のみ)
- ・ 分離運動制限(右)
- \*左側の股屈曲過活動がないので、狭義の片麻痺と言える  
ただし、股屈曲過活動と分離運動制限の合併である

28

# まとめ

## 周生期中大脳動脈梗塞

- 股屈曲過活動の症候が両側にみられることが一般的である
  - ・ 股伸展荷重制限がみられることもある
- 患側には分離運動制限がみられ、股屈曲過活動症候は健側より重度である
- 上肢症候が下肢症候より重いのが一般的である
- 上肢症候は、股屈曲過活動・上肢屈曲常時筋収縮状態による **肩内転・肘屈曲・手掌屈** の優勢と Blunnstrom の **伸筋共同運動・屈筋共同運動** の拮抗によって成り立つ
- 下肢症候は、股屈曲過活動・下肢屈曲常時筋収縮状態による **股屈曲・膝屈曲** の優勢と Blunnstrom の **伸筋共同運動** の拮抗によって成り立つ

## 側脳室周囲病変による脳性麻痺片麻痺

- 健側脳の罹患程度に差異があり、これにより健側症候程度にも差異がある
  - ・ 健側症候が無症候もありうる